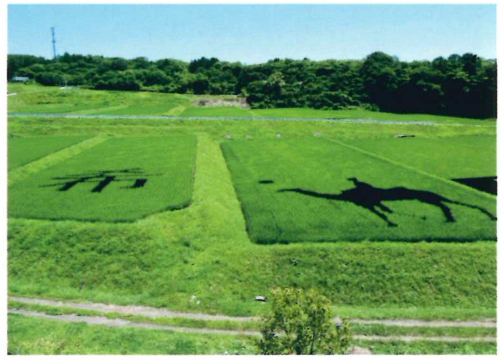
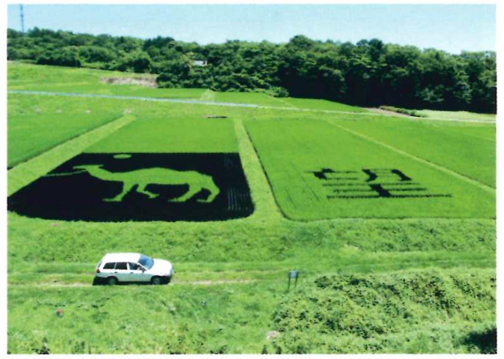


「希望」の「希」と昼のラクダ



夜のラクダと「希望」の「望」
ラクダの大きさを車と見比べて下さい

水田に巨大ラクダ現る

総合技術普及センター

「美味い米、梨北米」で有名な北杜市では、「第28回国民文化祭・やまなし2013」に向けたプレイベント事業として「稲絵アート」を実施しており、県では栽培技術等の支援を行っています。

図柄は、沿線の平山郁夫シルクロード美術館にちなんで、昼と夜に砂漠を歩く「ラクダ」の絵と「希望」という文字で、東日本大震災の被災者の方々への応援メッセージが込められています。

小淵沢町内のJR小海線沿線の水田には、通常の稲の中に「紫稲」が植えられ、緑と紫の鮮やかな色彩が見事です。この稲絵は、稲が収穫となる10月上旬頃まで楽しむことができますので、是非一度、車窓から稲絵アートをお楽しみください。

■中央自動車道…小淵沢I.Cから車で3分
■中央本線………小淵沢駅から車で10分

台湾輸出向けモモの害虫防除・適正選果に向けた取り組み

果樹技術普及センター

果樹技術普及センターでは、関係機関と連携する中で、新たな販路拡大とブランド化を図るため、台湾向けのモモ輸出促進に向けた支援を行っています。

特に、モモシンクイガを中心とした害虫が発生しないように、害虫防除指導や、害虫の被害果実を見落とさない適正な選果指導の徹底を進めてきました。

害虫防除指導については、モモシンクイガのフェロモントラップ調査結果や生育・気象状況（ゲリラ豪雨など）を考慮し、害虫防除情報を作成して、JAと連携し指導の徹底を図りました。

適正選果指導については、研修会での害虫の生態や防除、被害果実などの説明、選果施設の巡回による選果体制や選果時の害虫発生の確認作業等の指導を行い、適正選果の徹底を図ってきました。

今後も関係機関と連携する中で、適切な害虫防除や選果の指導に取り組みます。

選果研修会での防除指導

選果施設での選果作業の確認

農業生産工程管理（GAP）手法をとりいれてみませんか

県では、消費者の食の安全・安心に対する関心が高まる中、農産物の安全確保に向けた取り組みとして、ＪＡグループと連携しながら、生産部会等でのＧＡＰ手法の導入、定着の推進をしています。

農業生産工程管理（ＧＡＰ）手法とは、農業者自らが、食品の安全確保、品質の改善、環境保全、労働安全、経営改善等の様々な目標を達成するための農業生産工程における一連のプロセスチェックを指します。

1.農作業の点検項目を決定………………計　画　段　階
2.点検項目に従い農作業と記録…………実　践　段　階
3.記録した内容を点検・評価・改善………点検・評価段階
4.改善点を見直し次の栽培に反映………見直し・改善段階

これらの４つの段階を繰り返して取り組むことにより、安定的な農業経営につなげていきます。

生産部会や、生産法人等でＧＡＰ手法の導入を考えている場合は、最寄りの地域普及センター等へご相談ください。

山梨県普及センターだより

Yamanashi Agricultural Extension Service Infomation

●編集／発行　山梨県総合農業技術センター　●住所　甲斐市下今井1100 〒400-0105
●Tel.0551-28-2496　●Fax.0551-28-4909
●URL.http://www.pref.yamanashi.jp/sounou-gjt/
●E-mail.sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

No.18
平成24年
9月20日発行

コントラクター組織を利用した自給飼料の確保を

（飼料受託生産組織）

畜産技術普及センター

アメリカ中西部の穀物地帯を中心に56年ぶりとなる大規模な干ばつが広がっています。被害の範囲は国土の6割以上に及び、世界的な穀物の供給に混乱が生じることが懸念され、すでにトウモロコシや大豆の先物価格は、この2か月あまりの間に歴史的な水準にまで高騰しています。

国内でもトウモロコシや大豆と連動して値上がりしている輸入の小麦価格の引き上げが決定しています。こうした状況の中、畜産農家においては、予想される飼料価格の高騰に対応し、今まで以上に自給飼料の確保に努め、経営の安定化に向けた取り組みを行う必要があります。そのためには、飼料の量的な確保だけでなく飼料の品質や家畜に必要な栄養価にも配慮することが必要です。

飼養頭数の規模拡大が進む一方で、飼料生産面積の拡大は進まない状況がみられていますが、労力や機械確保の問題から自給飼料生産を断念している場合は、コントラクター（飼料受託生産組織）を活用して粗飼料を確保することも一つの方法です。

中北地域で生産されている稲発酵粗飼料（WCS）は、乳用牛に現物で10～12kg程度給与することが可能です。肉用肥育牛に用いた場合も採食量が多く増体にも優れています。水稲農家と畜産農家が連携し、WCSを生産・利用することにより、米の計画生産を行い、安定した自給飼料の確保が図られることで畜産経営の低コスト化にも繋がります。また、耕作放棄地等を始め有休農地を活用し、収量や粗飼料品質に優れた飼料用トウモロコシの生産拡大を図ることなども検討する必要があると考えられます。

アメリカ海洋大気局によると今後も降水量は少なく、干ばつは11月まで続く予想であることから、今後は、これから作付けの時期を迎える南半球の気候にも注視し、県産の自給飼料確保に向けた取り組みを進めていくことが必要です。

飼料の生産について、ご相談、ご質問がある場合は畜産普及科までご連絡下さい。

WCSの収穫状況

トウモロコシの収穫状況

青年就農給付金（準備型）二次募集開始!!

今年度から県が認めた研修機関において研修を受ける就農希望者を対象に、予算の範囲内で年間最大150万円を給付する「青年就農給付金」事業を実施しています。この度、給付対象者の二次募集を行うこととし、締め切りは10月10日までとなっています。応募要件や研修計画作成など、詳しくは、農務事務所（地域普及センター）、総合農業技術センター農業技術普及部（総合技術普及センター）、果樹試験場普及部（果樹技術普及センター）、担い手対策室へお問い合わせください。

なお、平成20年以降に就農された方を対象とした青年就農給付金（経営開始型）については、居住地もしくは就農先の市町村にお問い合わせください。

参考:担い手対策室ホームページ　http://www.pref.yamanashi.jp/ninaite/seinen_shuno_kyuhukin_boshu.html

大豆とお米の教室を開催

中北地域普及センター

中北地域普及センターでは、小・中学生を対象に作物を栽培する楽しさと、収穫することの喜びを実感してもらい、地域農業への関心を高めることを目的に、学校農園を活用した取組みを支援しています。

本年度は南アルプス市立若草小学校で、大豆と水稲の栽培を支援しています。栽培管理方法についての学習会では、「大豆はどれくらいとれますか」「大豆はひとり何kgぐらいたべているのですか」など、収穫や産地に関する活発な質疑が出され、大豆そのものへの関心の高さが伺えました。

これと併せて、農業の持つ多面的機能への理解促進のため、田んぼの生き物調査を実施し、水田における生物多様性保全といった機能も重要な役割であることを理解してもらうことができました。

今後は、これらの収穫体験を通じ、自ら育てた農作物を収穫する喜びとその利用方法に至るまでを理解してもらうことで、自分の住む地域で行われている農業生産活動に目を向けて、将来の担い手として地域に定着してくれることを期待しています。

みんな大豆はかせになれそうです

「ひと粒入魂?」みなさん真剣です

ブドウ雨よけ施設の導入による安定・高品質生産に向けて!!

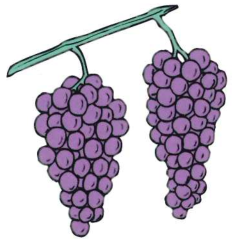
峡東地域普及センター

ブドウの栽培は、近年の異常気象により、結実不良やべと病等の病害の発生、収穫期の裂果など、その年の作柄を大きく左右する問題が多発しており、高収益農業の実現に向けて抜本的な対策が求められています。

こうした中、安定生産と高品質化に有効である雨よけ栽培が、地域で改めて注目されています。

これを受け、峡東地域ではJAが中心となり、雨よけ施設の実証圃を設置し、着色状況や病気の発生状況を調査しその有効性を確認しています。実証圃では、短梢平行整枝仕立てにおいて主枝上（結実部）にビニールを簡易的に被覆する「簡易雨よけ施設」、従来のサイドレス施設の約半分のコストで設置できる「スーパー低コストサイドレスハウス」の２種類が検討されています。

既に、農業者や農協及び県関係機関などによる現地検討会等が開催されており、多くの参加者が集まり関心も高く、今後の導入が期待されています。



スーパー低コストサイドレスハウス

簡易雨よけ施設

農業者やJA、県職員による現地検討会

あじさいで地域づくりを支援しています

峡南地域普及センター

富士川町の小室地区は、特産品のゆずが有名ですが、寺院の境内に約2万株のあじさいがあり、「あじさい寺」とも呼ばれ地域の観光の名所として有名です。そのあじさいは、地域ぐるみで管理され守られてきました。

近年、手入れが行き届かず花の色が薄くなってきているなど、管理に課題を抱えていました。観光資源のあじさいを保全するとともに、地域が年間通じた他地域との交流を持つため、普及センターで支援し、今年は7月22日（日）に、あじさいの花後の剪定ボランティア活動を行いました。

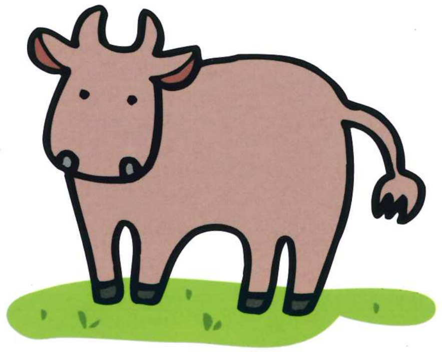
当日は、78名の参加者が地域住民と交流を図りながらあじさいの管理に汗を流し、参加者からは「地域の皆さんのまとまりと一生懸命さを感じた」「今後も地域活動に協力したい」「来年の花盛りに来たい」等の声が寄せられました。

今後は、剪定ボランティア活動だけではなく、苗植え付けボランティア活動などを計画しています。他地域との交流をさらに推進し、まずはあじさいやゆずをきっかけに小室地区を知ってもらい、年間を通して小室に人が来てくれるようなメニューを企画し、活気ある地域になるよう活動していきます。

剪定作業に多くのみなさんが参加

多くの品種を守り増やしていきます

耕作放棄地へ解消を目指して レンタル牛の放牧を支援



富士・東部地域普及センター

富士・東部地域では、管内の耕作放棄地の解消に向けて、レンタル牛を利用した放牧を進めています。本年度は、大月市と都留市内の2ヵ所で放牧を行いました。その1つである大月市では、NPO法人おおつきエコビレッジが鳥沢地区の遊休農地や里山など10haを管理しています。

おおつきエコビレッジは、重労働になっている梅と桜の林の除草管理作業を軽減するため、普及センターの斡旋により南アルプス放牧研究会が所有するジャージー牛2頭を借り受け本年6月から放牧を開始しました。

普及センターでは、電気牧柵の張り方や牛の飼養管理などきめ細やかな指導を行うとともに、牛を地域の観光資源としても活かしていくよう指導を行っています。さらに、おおつきエコビレッジを展示圃として活用し、管内で遊休農地の活用に取り組む団体へのレンタル牛の導入に向けて市町村等と話し合いを進めています。

除草対策で活躍中

子供たちもお気に入り